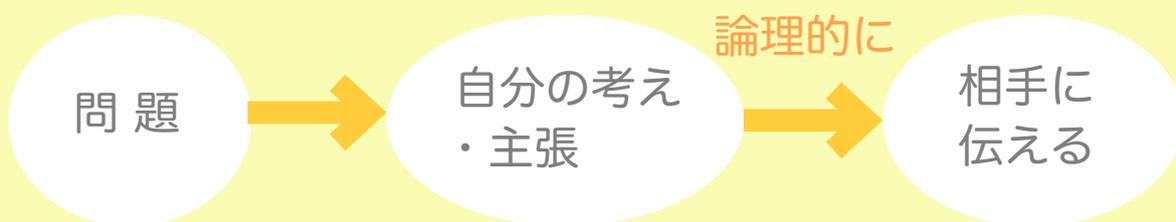


# 小論文作成のポイント

## 小論文とは・・・

小論文は、問われていることに対して「私は、～と考える」という意見を述べ、「なぜなら、～だからだ」という理由（論拠）を筋道立てて説明し、相手を説得する文章のこと。



## 問題を読み解く！

問われていることを正確に把握し、書くべきことを考える。

Q：大学全入時代を迎え、広島大学が生き残るためには何が必要だと思いますか。

（背景）大学全入時代

（書くべきこと）広島大学が生き残る方法

Q：大学の組織力向上のために、職員としてどのようなことをなすべきか、今までの職務経験をふまえて書いてください。

（目的）大学の組織力向上

（書くべきこと）職員としてなすべきこと

（条件）今までの職務経験をふまえる

Q：広島大学は「スーパーグローバル大学創成支援」事業に採択されましたが、大学として人材育成のためにどのような取組が必要だと思いますか。

（書くべきこと）SGUの組織として、人材育成のために必要な取組

## 基本的な構成

序論

本論

結論

基本的な構成は「序論」1割、「本論」8割、「結論」1割くらいの目安で書くとよい。

- 序論：背景・現状を説明する。問題提起をおこなう。いきなり結論を書く手法もある。
- 本論：「序論」で問題提起したことの説明。「結論」に至るまでの理由。
- 結論：自分の主張したいことをまとめる。「したがって～～である」

## 構成メモを作ってみる

書かなければならないことを箇条書きにして整理する。

- 問われていること、書くべきこと
- 序論に書くこと
- 本論に書くこと
- 結論に書くこと

たとえば

Q：広島大学は「スーパーグローバル大学創成支援」事業に採択されましたが、大学として人材育成のためにどのような取組が必要だと思いますか。

- 書くべきこと：SGUの組織として、人材育成のために必要な取組
- 序論：SGUとして大学が目指していること（目的）
- 本論：序論に書いた目的のために、大学がおこなうべき具体的な人材育成の施策
- 結論：よって、広島大学は以上のような（序論に書いた目的に沿った）人材育成の取組が必要である

## ストーリーが重要！

「序論」から、「結論」に至るまでの流れが、論理的なストーリーになっていることが重要。

### <例1>

序論：自分は〇〇について、～～と思う。

本論：～～と思うことの根拠、理由

結論：したがって、自分は～～と思う。

### <例2>

序論：目的達成のためには、現状〇〇な問題がある

本論：〇〇を解決するための具体的な方法

結論：以上のように、〇〇を解決し、目的を達成すべきと考える

## 段落について

1つの段落は1つのテーマを書く。

たとえば、2ページのSGUの問題について、「本論」部分を書くとすると・・・

### <悪い例>

グローバル化にともなって、英語を活用できる人材が必要である。そして、それらの人材が必要な部署に配置され、よりよい教育研究支援をおこなえるようにすべきである。また、人事異動によって、それらの人材が多様な部署で活躍し、他の職員にも影響を与えるべきである。

→1つの段落に「必要な人材」「人事配置」「人事異動」「他の職員への影響」とテーマが書き込まれすぎ！結局、主張したいのはどれ？となる。

### <良い例>

まず英語を活用できる人材を多く育成する必要がある。そのためには、充実した語学研修を実施すべきである。座学の講習に限らず、多様なライフスタイルを持つ職員も研修を受けられるようオンラインでの研修もおこなうべきである。また海外派遣の機会を増やし、派遣期間も長くすることでより深く英語を身につけられるようにすべきである。

→「英語を活用できる人材育成の具体的な方法」にテーマがしぼられている

## トピックセンテンスについて

トピックセンテンスとは、その段落で最も言いたいことを表した文章のこと。  
通常段落の一番はじめに書く。

さきほどの良い例文でいうと

「まず英語を活用できる人材を多く育成する必要がある。」の箇所がトピックセンテンス。

まず、トピックセンテンスを書いて、その後に詳しい説明を書いていく。

## 順序について

段落、文章は、論理的な順序になるように気をつける。

(理由—結論) A という理由がある。したがって B である。

(時系列) まず A が起こり、次に B が起こり、その結果 C が起こった。

(並列) ～～には 2 つの場合がある。1 つは A である。もう 1 つは B である。

## 本番では・・・

時間配分に気をつける。

「構成メモ」を書くのに何分、小論文を書くのに何分、見直しするのに何分、  
ということを想定して書きましょう。

9割は埋めよう。

なるべく字数ぎりぎりまで書いたほうが印象がよいです。

著者：天野 由貴

発行日：2016年6月14日

連絡先：y-amano10@hiroshima-u.ac.jp

配布サイト：<http://home.riise.hiroshima-u.ac.jp/~ten/>

